

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0737
施設名	同援さくら保育園
施設所在地	区南池袋3-7-8オリナスふくろう
法人名	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

少人数保育およびアレルギー児安全確保のための環境設定

<テーマの設定理由>

少人数保育、2グループ活動を年度当初から行っていたが、保育室内での活動流れが既存の棚ではスムーズにいかず、保育者も子どもも動きに迷うことが多かった。そのため扉付きの棚を4つ購入し、空間を仕切ることで、保育室を4空間に分け、少人数保育を実施しやすい環境を作った。また、アレルギー事故を防ぐため、アレルギー児とその他の児の食事前後の動きを明確にした。

2. 活動スケジュール

どのように保育空間を仕切ったら保育がスムーズにできるか、アレルギー児の安全を確保できるか、子どもの遊び空間とパーソナルスペースを確保できるか、を担任間で何度も話し合った。扉付きの棚にすることで保育者も子どもの動きもスムーズになると考え、保育業者2社の製品を比較検討し購入に至った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

扉付きの棚（扉はロックが可能で空間を仕切ることができる）を4つ購入した。2つは玩具入れとして使用、残り2つは指先遊びコーナー用の教具入れ、食事用のエプロン入れとして使用。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

①少人数保育、2グループ活動について

・空間をしっかりと分けて遊ぶことにより、好きな遊びをゆったり楽しむ姿が見られるようになった。また運動遊び、玩具遊び、指先遊びの3コーナーを設定することで子どもが自ら遊びを選ぶようになった。子ども同士のトラブルについても、保育者の目が行き届き、かみつきや怪我が少なくなった。

・生活面での自立においては、靴下を履く場所、上着を着る場所など、空間を分けることでより丁寧にやり方を知らせ、自立に向けて焦らせることなく促すことができるようになった。

②アレルギー事故防止について

保育室内に2箇所手洗い場があるが、アレルギー児とその他の児の手洗い場所の違いや流れが保育者、子ども共に明確になった。また、離席後の流れも明確化したことで、アレルギー児本児の意識はもとより、その他の児も流れを把握し、アレルギー児に接触しないような動きができるようになってきている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「あっちに行きたい」「指先やりたい」と子どもたちが自らやりたい遊びができる環境になっている。また少人数で遊ぶことにより子ども同士の関わりが増えたり、子どもが保育者に対してより積極的に自分の思いを伝えようとする姿が増え、人間関係の広がりや言葉の発達に繋がっている。

・アレルギー児自身がどちらの手洗い場を使用するか、また、食事前後の移動ルートも理解して行動できるようになった。その他の子どもたちも最初の頃は「こっち？」と確認しながら行動していたが、現在はどのルートで移動するかを理解し行動できている。低月齢児も習慣化することで同じようにできている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

購入した4つの棚はある程度高さがあるため、しっかり4つの空間に分けることができた。そのため、気が散ることなく遊びに集中できたり、少人数の落ち着いたくつろげる空間を作ることができた。また、アレルギー児対応については、どの保育者が担当しても理解しやすい促しができるようになった。高月齢児の子どもたちは「あっち?」「こっち?」と確認するようになり、その理由も添えることで理解して行動できるようになっている。低月齢児は理解が難しい点もあるが、毎日のルーティンで習慣化することで迷わず行動できるようになった。来年度は定員が20名となり、そのうち2名がアレルギー児のため、今年度作りあげたこの環境を活かして保育していく。